

第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラムにて「『生きる力』推進のためのシンポジウム」を開催しました(2015/3/18)

テーマ：イベント，生きる力，実践的防災学
URL：<http://ikiru.irides.tohoku.ac.jp/index.html>

2015年3月18日(水)にかけて東北大学川内北キャンパスにて，第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラムにて「『生きる力』推進のためのシンポジウム」を実施いたしました。生きる力」市民運動化プロジェクトとは，当研究所の社会連携オフィス特定プロジェクト（社会との防災・減災の連携を強化・推進することを目的とするプロジェクト）として位置付けられているもので，市民運動・防災啓発等を活動目標にしています。

本シンポジウムでは，プロジェクトのこれまでの活動を振り返る目的として，第1部「みんなの防災手帳」の報告を3件（宮城県多賀城市，宮崎県高鍋町，テレビ岩手），第2部「SENDAI CAMP」の報告を4件，第3部は「若者からの報告」と題して県内高校から防災・減災に関する取組みの報告をポスターとオーラル形式で5件（仙台一高，二高，三高，古川黎明高校，多賀城高校），最後に今後を考える目的で総合討論「『生きる力』をさらに向上させるためには」を行いました。

今村文彦教授（災害リスク研究部門）が開会の挨拶と総合討論のコーディネーターを，杉浦元亮准教授（人間・社会対応研究部門）が第2部で1件の報告と第3部の司会を，野内類助教（人間・社会対応研究部門）が第2部で1件の報告を，佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）が総合司会と各プロジェクトの概要説明，保田真理助手（災害リスク研究部門）がポスターセッションのコーディネーターを行い，ボレー・セバスチャン助教（情報管理・社会連携部門）がパネルディスカッションでパネリストとして登壇しました。

第3回国連防災世界会議の最終日にも関わらず，150名もの参加があり盛況に実施することができました。最後のパネルディスカッションでは，参加高校生を中心に活発な議論が交わされ，わが国の今後の「生きる力」に大きな希望が持てた会合となりました。



総合討論の様子
(左：今村教授，中央：杉浦准教授)



活発に総合討論に参加する高校生



参加高校生によるプレゼンテーション

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）